

平成17年(2005年)10月13日 木曜日

信大病院

骨髄細胞移植に成功

血管を再生、狭心症回復

信州大学医学部付属病
院(松本市)は十二日、狭
心症の患者に対し、磁気
を利用して患者自身の骨
髄液から毛細血管を作り
出す「血管内皮前駆細胞
(CD34陽性細胞)」を採
取し、バイパス手術ので
きない心臓血管に移植す
る手術に成功した、と発
表した。病院によると、
この細胞を使った移植手
術は、国内二例目の成功
という。磁気を使った血
管内皮前駆細胞の精製に
ついては「国内初ではな
いか」と話している。

同病院によると患者
は、県内に住む男性(6
0)。糖尿病に起因するコ
レステロールが心臓の血
管につまって発症する重
い狭心症で平成十五年五
月、入院した。検査の結

果、血流に障害がある心
臓の血管三本のうち二本
はバイパス手術によって
血流回復が可能だが、残
りの一本はこの手術が不
可能な場所にあることが
分かった。

このため病院では、こ
の一本の血管について患
者の骨髄液から採取した
細胞を移植し、新たな毛
細血管をつくらせて血流の
流れを回復させる手術を
実施。移植の際、採取し
た骨髄液から磁気細胞分
離法によって血管内皮前
駆細胞だけを分離、精製
して、二十回にわたって
男性に注入した。

術後の経過は順調で、
副作用や合併症もなく患
者は退院した。天野純心
臓血管外科長は「安全
性にも自信がある。今後
は二十一世紀にふさわし
い骨髄細胞移植による再
生治療を進めたい」と話
している。